

上の山! 本校の先輩達

この昔、荘原に 戦争が来た頃の話

この話は、戦争が激しくなった昭和19年から20年に向け、荘原で実際にあった出来事です。第二次世界大戦の末期、アメリカ軍による本土空襲の可能性が高まってきました。政府は、指定する13の主要都市に住む国民学校の3年生から6年生の児童の疎開を、昭和19年6月に決定しました。阪神地区では、大阪市・神戸市・尼崎市の3市が疎開する対象となりました。



7月18日、大阪市は集団疎開実施を新聞発表し、【観音寺の様子「斐川と学童集団疎開」から】7月22日には、市全体の集団疎開希望者の人数が出そろったと言います。当時の子ども達、その保護者そして教職員が、大変重要な選択と準備を短期間に行わなければならなかったことが想像できます。

疎開準備が整った区では、8月28日から疎開が実施されていきました。その中の大阪市西区からは、2,934名の児童が島根県へ集団疎開することになっていました。

昭和19年9月22日の昼頃、大阪市西区堀江国民学校の3年生と6年生の子ども達130名が荘原駅に降り立ちました。村長や校長の出迎えを受けた後、荘原国民学校で昼食をとった後、班別に各宿舎へ徒歩で移動していきました。

集団生活に慣れるため、1ヶ月間は学校へ通わず、各寮で学習も行いました。そして、

(表) 荘原村 学童集団疎開受け入れ先一覧			
寮名	学年性別	児童数	寮母
宗玄寺寮	6年女子	21名	長谷川綾子
観音寺寮	3年男女	27名	宮廻富子
西念寺寮	6年女子	27名	北村君子
永徳寺寮	6年男子	25名	阪根梅子
吉成寺寮	6年男子	30名	戸塚信子(訓導代用)

11月3日の明治節に参加するため学校へ登校し、それ以後は学校で学習するようになりました。6年生は、卒業式と中学入学のために2月末に大阪へ帰っていきます。4月からは、3年生女子が宗玄寺へ、男子は永徳寺へ移ることになりました。

その後、大阪市西淀川区千船国民学校の50名あまりの児童が、香川県の疎開先から荘原村へ移ってきました。1・2年生15名は宗玄寺へ、3年生以上の男子は吉成寺へ、3年生以上の女子は西念寺へ加わったと言います。

当時の斐川は、昭和20年3月に、美保基地から大社基地(出西飛行場)建設のため、3,000人の予科練習生がやって来ていました。荘原村国民学校は、1,200人の予科練生の宿舎となっていました。しかし、同年7月28日(土)には、アメリカ軍艦載戦闘機13機が来襲、そのうち7機が大社基地を攻撃しています。その銃撃の弾痕が、現在でも新川鉄橋に11箇所認めることができます。決して安全な場所ではなかったようです。そして、同年11月9日午後、疎開団は約1年2ヶ月の疎開を終え、大阪へ向け出発していきました。その間、荘原地区の人々は、疎開児童や先生を温かく見守り、物心両面にわたり支援し続けたと、荘原村での疎開経験者によって伝えられています。

【参考図書】 『斐川と学童集団疎開～21世紀に伝えたい貴重な証言～』 斐川町 平成13年3月刊

『図説 出雲・雲南の歴史』 郷土出版社 平成24年2月刊